

チャプターごとに見る（上に映像が表示されない場合、こちらからご覧ください）

[解説 はじめる前の注意点](#)

1. 下半身の運動

[下肢運動 椅子バージョン（通して見る）](#)

[説明と注意](#)・[横運動（1）](#)・[縦運動](#)・[横運動（2）](#)

2. 上半身の運動

[上肢運動（通して見る）](#)

[説明と注意](#)・[基本動作（1）](#)・[基本動作（2）](#)・[コンビネーション](#)

3. 立って運動

[下肢運動（通して見る）](#)

[説明と注意](#)・[横運動（1）](#)・[横運動（2）](#)・[縦運動（1）](#)・[ランジ縦運動（2）](#)

[もっと楽しくするために](#)

[> ページTOP](#)

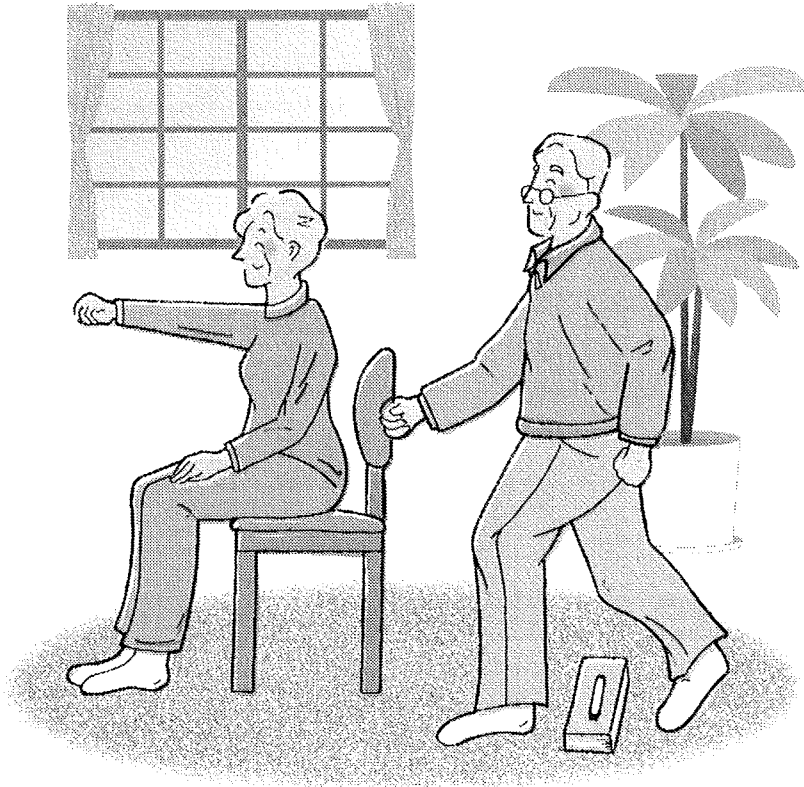
厚生労働省科学研究 がん臨床研究事業
がん医療における医療と介護の連携のあり方に関する研究班

大文字版・絵でわかる

からだを積極的に動かしましょう

治療を続けるために…

日常生活を維持するために…



厚生労働科学研究費補助金・がん臨床研究事業
「がん医療における医療と介護の連携のあり方に関する研究」

研究代表者 小松恒彦 (帝京大学医学部教授)

からだを積極的に動かしましょう

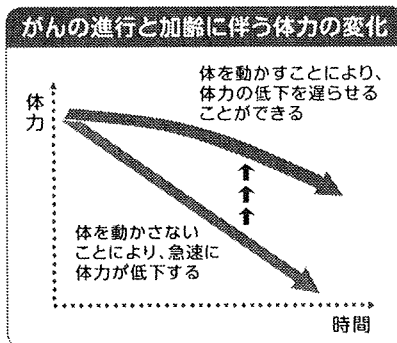
治療を続けるために

日常生活を維持するために

がんの患者さんにとって、体力を維持しながら日常生活を住み慣れた家庭で過ごすことはきわめて大切です。

がんの治療を続けられるかどうか、患者さんの体力や日常生活能力によって左右されます。皆さんは、「介護予防運動」という運動をご存知ですか？ 介護予防運動とは、体力が低下し介助やリハビリが必要とならないよう、その一歩手前で始める運動です。介護予防運動は、廃用症候群（体を使わないことによる衰え）などを対象とすることが多いですが、今回はがん患者の皆さんが「楽しんで」体力維持をできるプログラムを選びました。

患者さん毎の状態に合わせて、お好みの運動をお選びください。ご家族の方も、がんであっても体力維持の重要性をご理解いただき、患者さんの運動を見守り、ご支援していただければ幸いです。



厚生労働科学研究費補助金・がん臨床研究事業
「がん医療における医療と介護の連携のあり方に関する研究」
研究代表者 小松 恒彦 (帝京大学医学部教授)

⚠ はじめる前の注意点

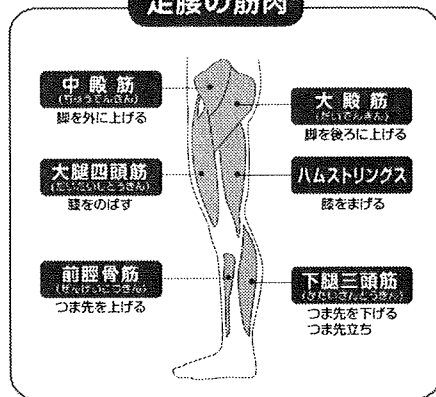
- 主治医に相談してからおこなってください。
- 体調がすぐれないときは控えましょう。
- 途中で気分が悪くなったり、異常を感じた場合はただちに中止してください。
- 安全な場所でおこないましょう。
- 水分補給はこまめにおこないましょう。

退院してすぐの頃は …まず下半身



ベット中心の入院生活で足腰の筋力が低下しています。まず簡単な運動から始めて、少しずつ今までの生活に戻して行きましょう。

足腰の筋肉



下肢運動

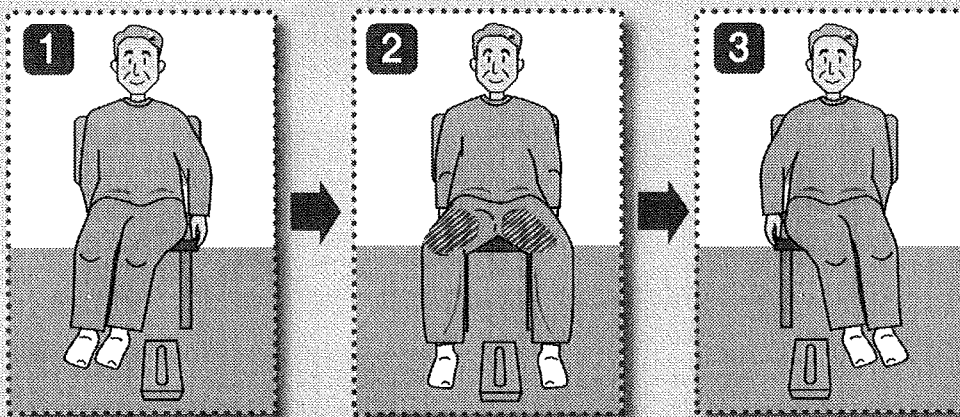
—椅子バージョン—

⚠️ 椅子の選び方

脚や座面に安定感があり、足裏が床にしっかりつくものを選びましょう。キャスター付の椅子などでは行わないでください。

横運動

① ティッシュボックスをまたいで移動を左右に繰り返します。



使用する筋内の筋所
(黒線する筋所)

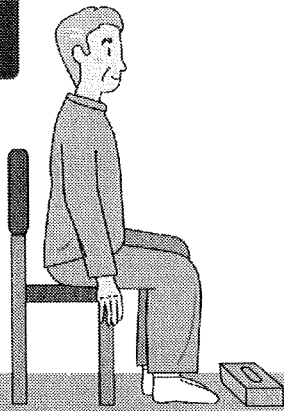
下肢運動

—椅子バージョン—

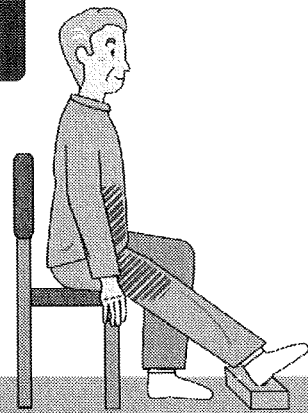
縦運動

- ①右足をティッシュボックスの上に軽くのせ、左足を揃えます。
※腰をおこしておなかに力を入れます。

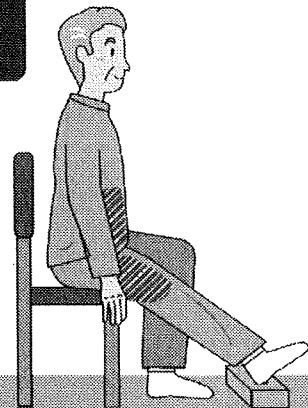
1



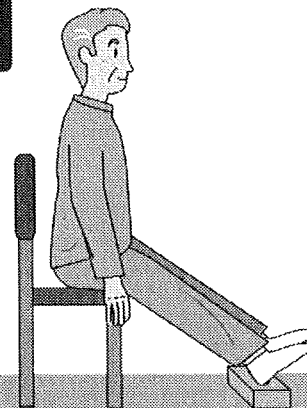
2



8

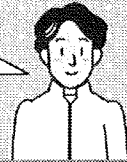


7




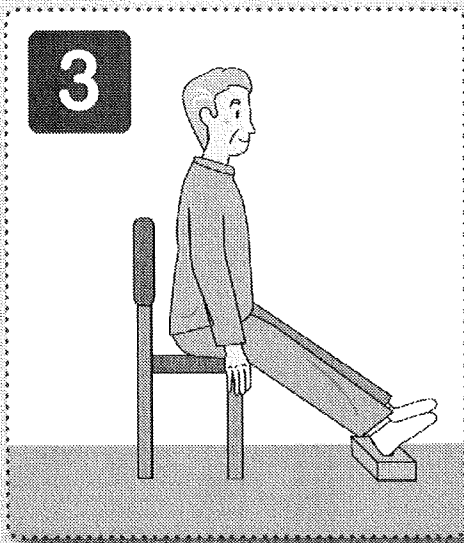
⚠ 椅子の選び方

脚や座面に安定感があり、足裏が床にしっかりつくものを選びましょう。キャスター付の椅子などでは行わないでください。



②右足から戻して、左足を揃えます。
※左足からも同様におこないます。

 使用する筋肉の箇所
(意識する箇所)



下肢運動

—椅子バージョン—

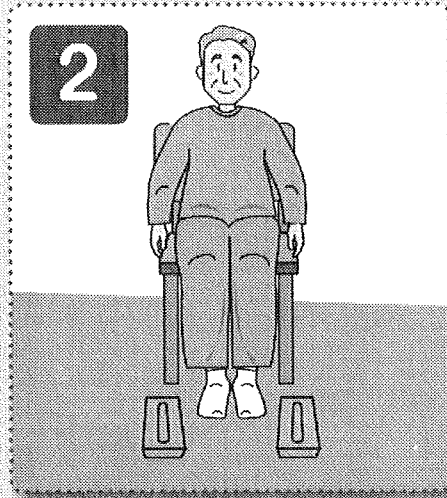
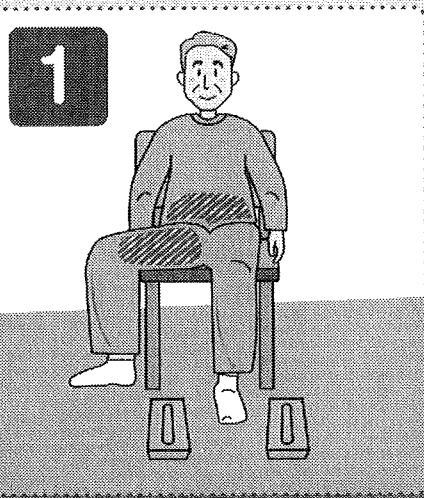
⚠ 椅子の選び方

脚や座面に安定感があり、足裏が床にしっかりつくものを選びましょう。キャスター付の椅子などでは行わないでください。

横運動

②

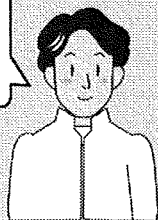
- ①右足でまたいで、戻します。
- ②左足でまたいで、戻します。



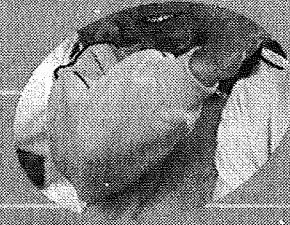
使用する筋肉の箇所
(意識する箇所)

⚠ 注意

開いた足のひざとつま先の向きを合わせます。
開く角度は無理のないように行ってください。
(足を開く角度・移動する時の高さで強さが変わります。)

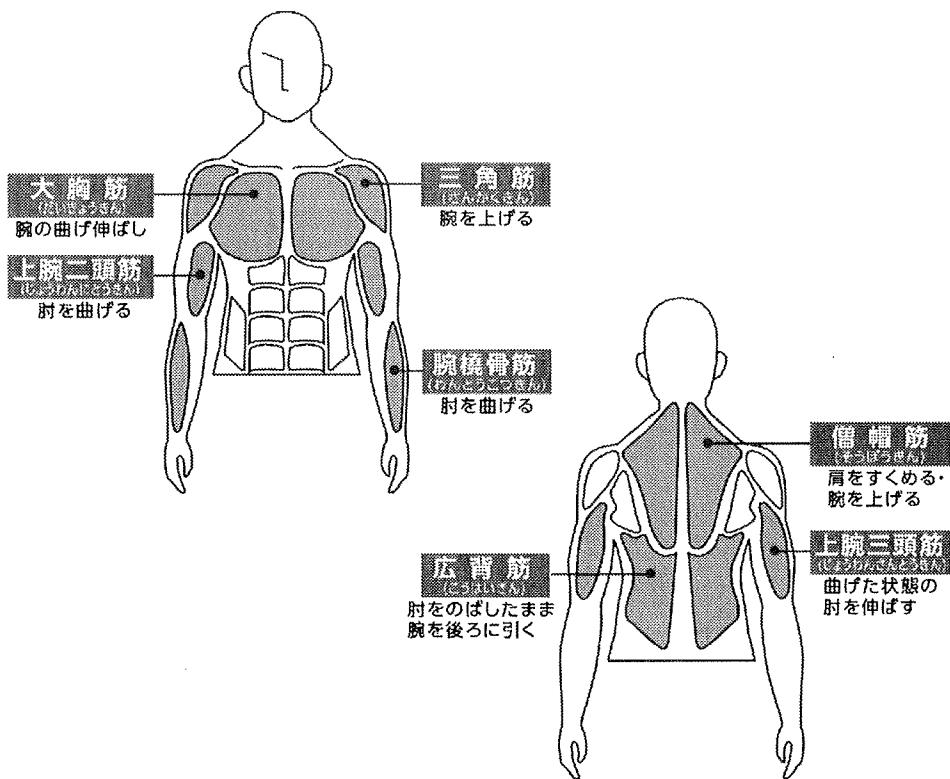


慣れてきたら …上半身も



腕を動かすことで食事・身だしなみ等、生活に必要な力を向上させることができます。また、ボクシングのようにパンチを出すことで、なぐる・打つという通常の生活では体験できないことを疑似体験し、高揚感を味わえ、ストレス発散になります。

上肢の主な筋肉



7

上肢運動

基本動作 ①



使用する筋肉の箇所
(意識する箇所)

左右5回ずつ
行ってみましょう。



- ①足の裏を床につけ、肩幅位に開きます。
- ②手は卵を握るように軽く握り、あごの下に構えます。

- ③顔の前に的を定め、まっすぐ同じ所をめがけパンチ！同時に「シュ！」と息をはきます。

※「シュ！」と声を出すことで、息を吐き出し、血圧の上昇を抑制します。
※パンチは、できるだけ遠くを目指すことでより多くの筋肉が使われます。

⚠ 椅子の選び方

脚や座面に安定感があり、足裏が床にしっかりつくものを選びましょう。キャスター付の椅子などでは行わないでください。

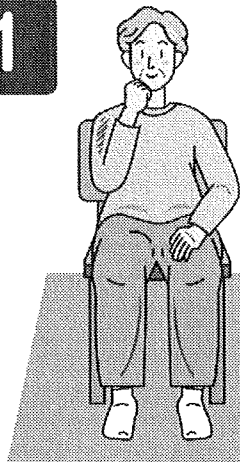


基本動作

②

使用する筋肉の箇所
(意識する箇所)

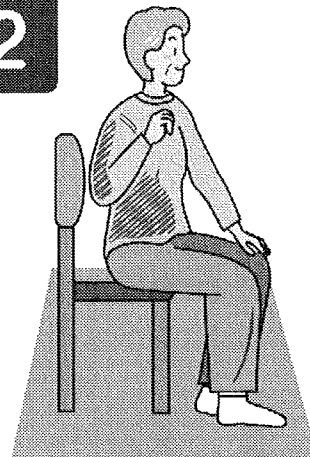
1



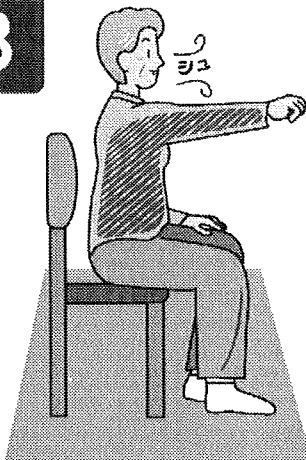
肩を後ろに引いたときに、頭は動かないようにしましょう。



2



3

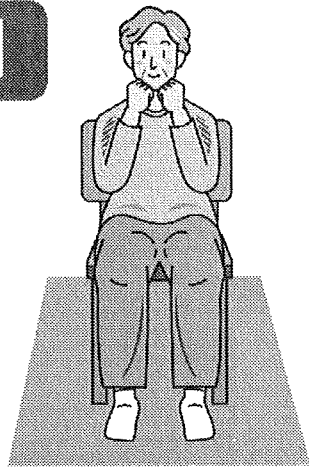


- ① **基本動作** ①と同じように構えます。
- ②パンチを出す前に一度、肩を少し後ろに引いてから「シュ！」と息をはきながらパンチ！
- ③左右5回ずつ行ってみましょう。

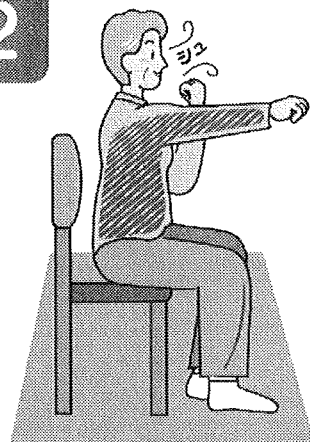
上肢運動

コンビネーション

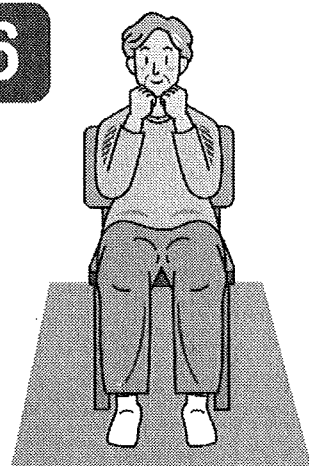
1



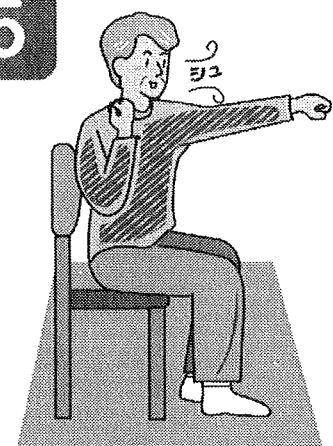
2



6




5



10

⚠ 椅子の選び方
 脚や座面に安定感があり、足裏が床にしっかりつくものを選びましょう。キャスター付の椅子などでは行わないでください。



 使用する筋肉の箇所
 (意識する箇所)



①構えて右パンチ、戻して右パンチ、左パンチ。

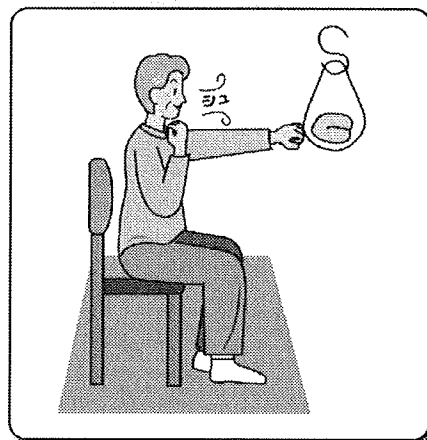


②逆も行ってみましょう。
 構えて左パンチ、戻して左パンチ、右パンチ。



**もっと楽しく
 するために!**

袋の中にタオルなどを入れて、顔の前にぶらさげ、的にすることで更に楽しくなるでしょう。



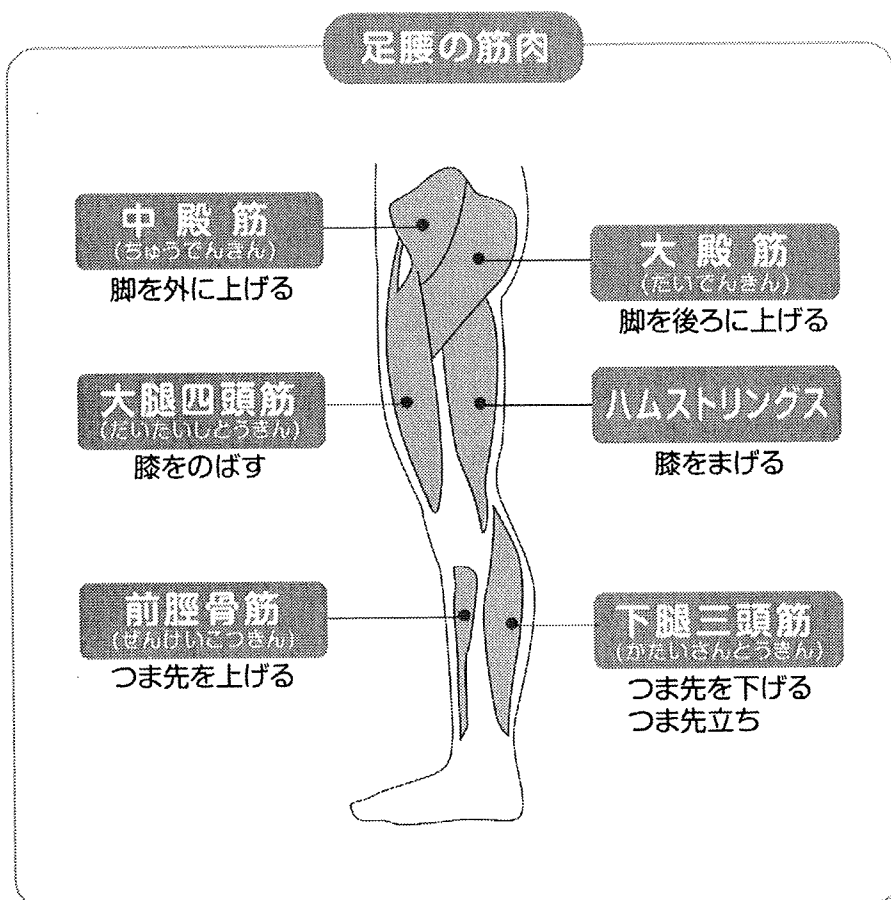
11

椅子での運動が簡単になったら
…立ってみましょう



安全な歩行のために重要な足腰の筋肉を意識して運動してみましょう。下肢には全体の約60%の筋肉が存在します。足腰を使った運動により全身の血行も促進します。

12



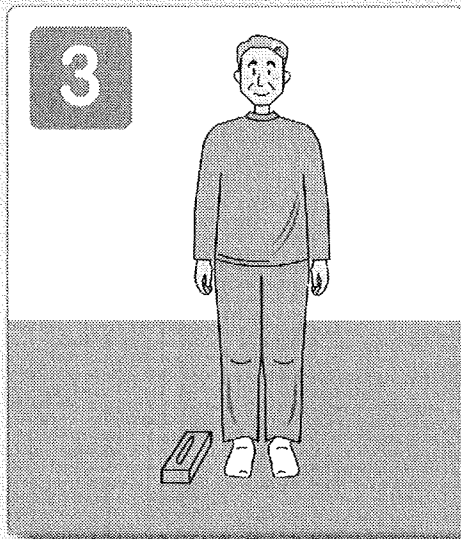
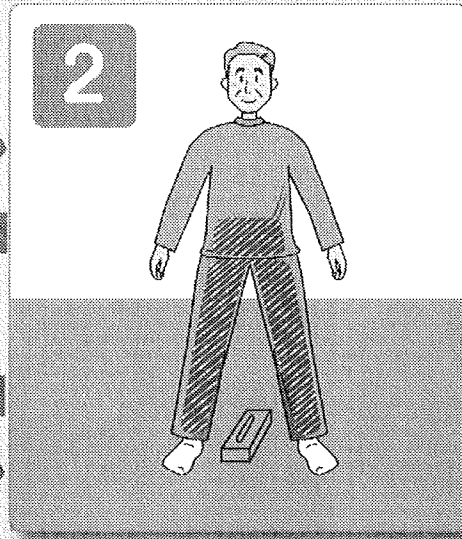
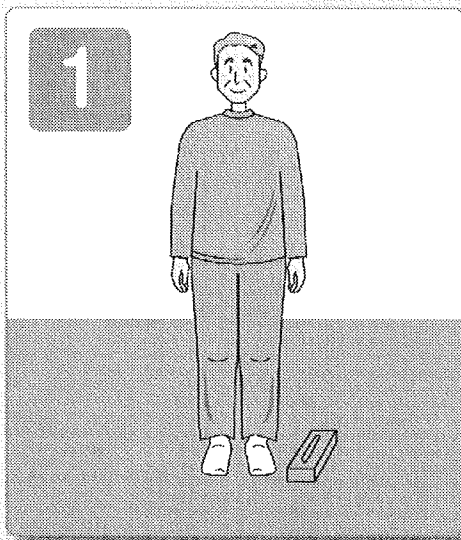
下肢運動

⚠ 注意

床がすべりやすい所では、
行わないで下さい。

横運動

① ティッシュボックスをまたいで移動を
左右に繰り返します。



運動強度が
弱い



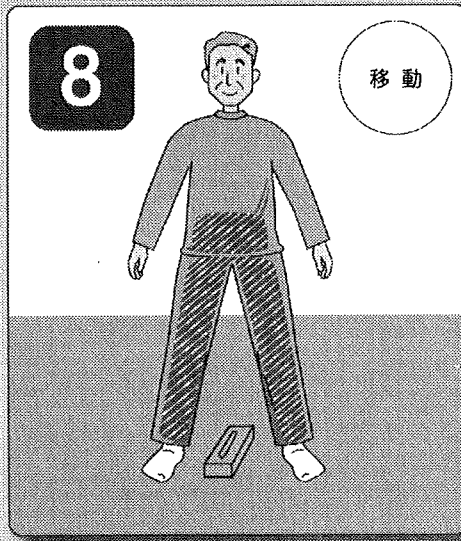
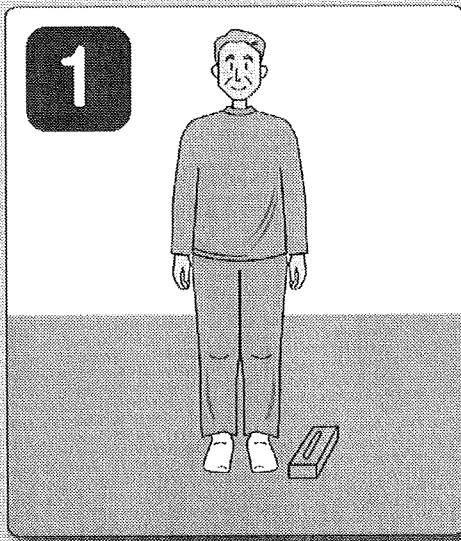
運動強度が
強い

使用する筋肉の箇所
(意識する箇所)

下肢運動

注意
床がすべりやすい所では、
行わないで下さい。

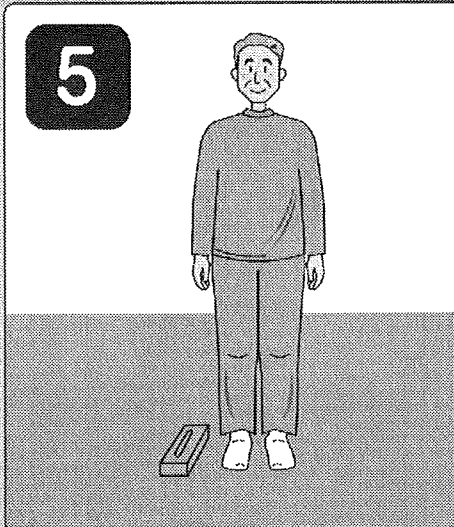
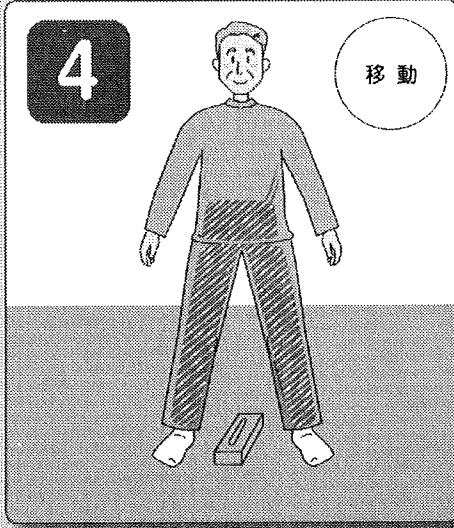
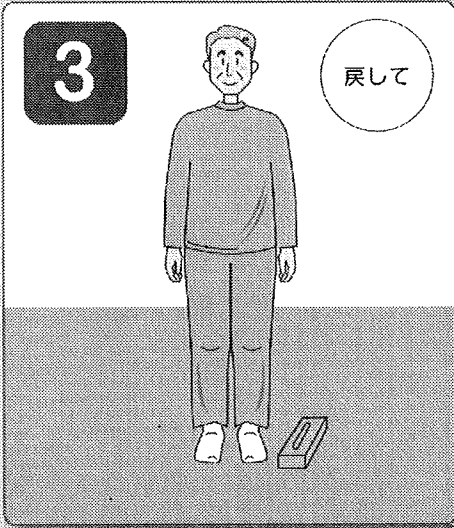
横運動 ② ティッシュボックス側の足を反対側に出して戻して移動。左右に繰り返します。



14

反対側に足を出した時、つま先を遠くに出して、もう一方の足の膝を曲げると運動効果が高まります。

使用する筋肉の箇所
(意識する箇所)



15

下肢運動

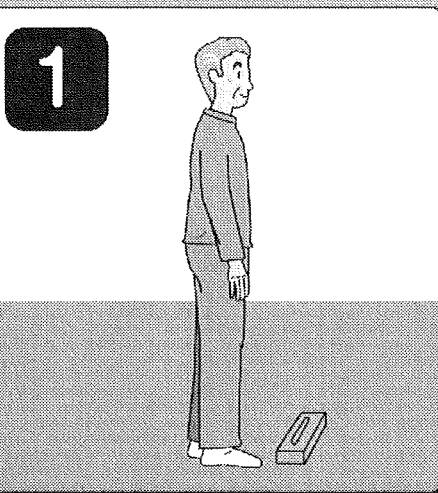
⚠ 注意

床がすべりやすい所では、
行わないで下さい。

縦運動

①

- ① 右足を出して、左足を揃えます。
- ② 右足から戻して、左足を揃えます。
- ③ 左足からも同様におこなってみましょう



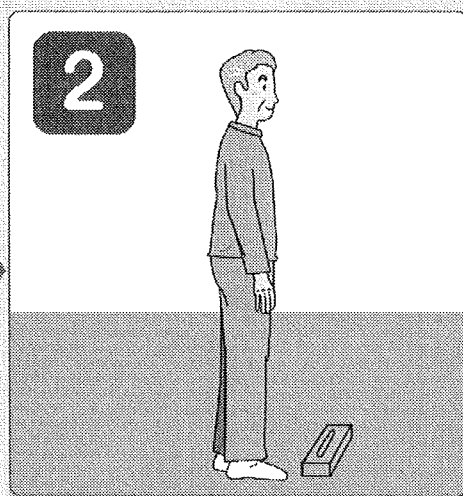
16

ランジ縦運動

②

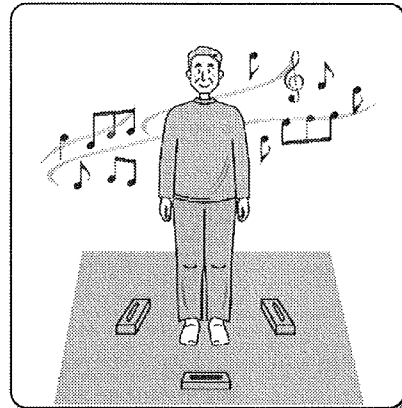
※ランジ=下半身強化を目的にした
運動姿勢

- ① 片足でティッシュボックスを
またぎ、しゃがむように両方
のひざを曲げ、戻ります。
- ② 左右交互にゆっくり行います。



もっと楽しく
するために!

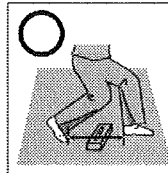
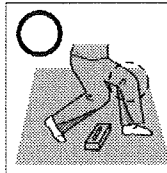
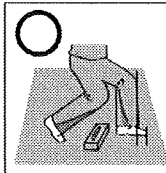
ティッシュボックスを複数使ったり、音楽に合わせておこなったりすると、楽しさが増すでしょう。

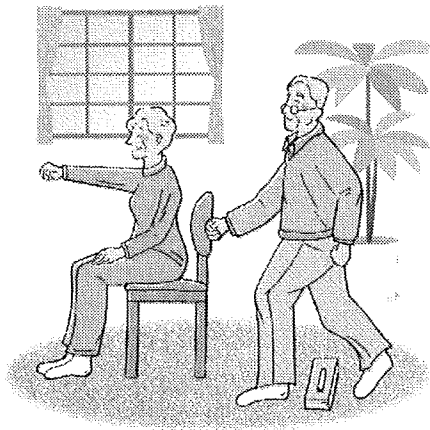


使用する筋肉の箇所
(意識する箇所)



- 前に出した足のつま先をひざが越えないようにします。
- ひざを曲げる角度・歩幅が無理のないようにします。





監修：厚生労働科学研究費補助金・がん臨床研究事業
「がん医療における医療と介護の連携のあり方に関する研究」
研究代表者 小松恒彦（帝京大学医学部教授）

制作：株式会社ピーベリー

このパンフレットは、より多くの人に正しく情報が伝わるよう、色、文字などのデザインに工夫がされています。
本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となりますのでご注意ください。

